

富士通信機新工場建設に就て*

富士通信機 取締役
臨事建設部長 六所 静一

工場建設の際其の位置の選擇は最も重要な基本的要件であるが、當社工場擴張に當りては會社創立當時富士電機より繼承した敷地に尙相當の餘裕もあり既設工場を其儘擴張することが最も敏速且つ容易の案と考へられた。併し既設工場は何分にも海岸に近く且京濱重工業地帶の中央に位し通信用機器の如き精密機械器具の製作には餘り適當な位置とは考へられないので、數回に亘る鋳試験の結果新に適當な敷地を求め移轉することに決定した次第である。新工場敷地の選擇に當りては、工場設置許可の難易、環境、人氣、地形地盤、風水害に對する考慮、交通通信の便否、都市計劃路線、從業員雇傭の難易、物資調達の難易、上水瓦斯電氣等公共施設の有無、地價及土地買收の難易、特別賦課金の有無等、幾多の條件を考慮せねばならず數ヶ月に亘り東京、川崎近郊に於ける候補地を物色中、適々川崎市都市計劃に於て地域變更があり、從來住居地域として工場建設を許されなかつた所が新に未指定地に編入され、輕工業の爲解放せらるるの好機に際會したので大いに選擇の範囲が擴大され、南武鐵道中原驛前數萬坪が大體前記の諸要件を具備して居るので、昨年二月其の大部分約四萬坪の購入を了した次第である。

此の地は昭和八年川崎市に合併せられた元橘樹郡中原町地内で舊工場より西北約十糺、東京丸の内より西南約十六糺の地點で南武鐵道により十七分にして省線川崎驛に達し、又東横、玉川兩電鐵も利用することが出来る、併しながら現在に於ては各電鐵間の連絡餘り宜しからず其車輛數亦充分ならざる爲交通至便とは稱し難き憾あるが、之れも漸次改善せらるゝことと思はれる。又工場敷地は現在施工中の東京市都市計劃第三號放射路線（目黒、駒澤、等々力、中原を經て横濱に至る二十二米道路）に沿ひ將來同路線完成の曉東京市内との自動車交通は頗る便利になると思ふ。

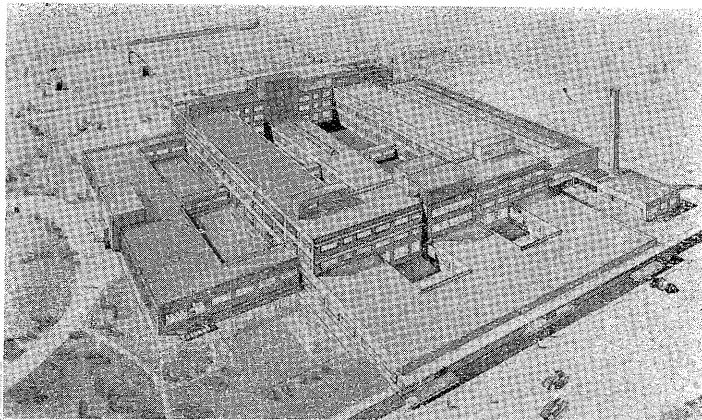
工場附近は人家疎にして苗圃樹林多く、東は多摩の

清流を隔て等々力、田園調布に對し、西は遠く秩父足柄連山の彼方に富嶽を望み風光賞すべきものあり工場環境としては申分なく從業員の情操涵養に資する點も亦尠からざるを覺ゆるのである。建築設計並に構内施設につきては工場は生産能率を第一義とすべき事は勿論であるが、外觀は工場なるの故を以て之れを等閑に附せらるべきものではなく、出来る丈清楚明快の建築とし、内部採光通風溫度等其の宜しきを得、從業員は其の家庭にあるよりも工場内に働く方萬事小綺麗且つ快よき感じのする様、又工場内は清潔に、自然に規律を保たねばならぬ様設計さるべきものと思ふのである。此の趣旨により斯界の權威山下壽郎建築事務所に於て設計せられ昨年八月起工、本年十月其の大部分の工事完成を見たのである、本館は鐵骨鐵筋コンクリート三階(一部四階)耐震建築とし、之れに附屬する平家建倉庫、汽罐室等を加へ總延坪約九千坪であつて、内食堂、更衣室、手洗、醫務室等約千三百坪に上り、尙晴天の際は附近の展望を恣にし得る屋上運動場二千七百坪を有して居る。製作機械設備、試験装置等は豫而其の充實に努め工場竣工を俟つて据付を了し、既設工場に比し生産力數倍し且自働機械の増設及作業場の配置改善等により能率增進の實績を挙げ得る見込みである。研究設備としては完全なる音響實驗室を始め各種の實驗室及び試作工場を一層整備し、昇降機、消火栓、暖房、溫濕度調整装置の附帶設備並に幹部呼出裝置を併用せる電話裝置、出退表示器等は何づれも新しき方式を採用して居る。川崎市に於て常に難問題たる用水は飲料水及洗滌水として上水道を使用し、雜用水は鐵分多き鑿泉水を避け大型淺井戸を設け多摩川副流水を使用することとした。屋外施設としては今後後庭約一萬坪に野球、庭球其他の運動場を設備し、又將來の建築豫定地及前庭等構内空地約二萬坪に漸次常磐木、芝生、花卉等を配置し構内全部を綠化する計畫である。

* On Construction of Our New Factory

富士通信機新工場工事メモ

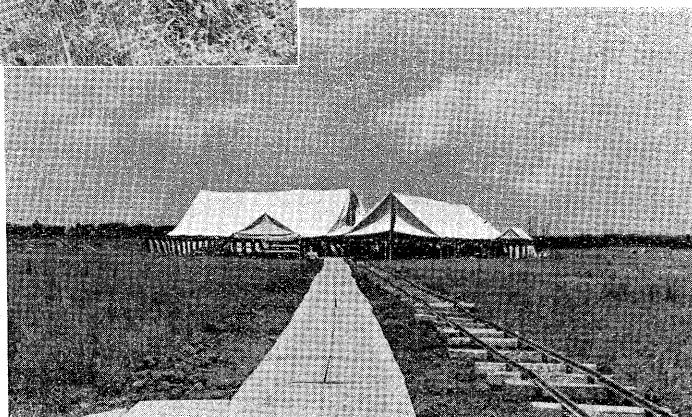
工
場
配
景



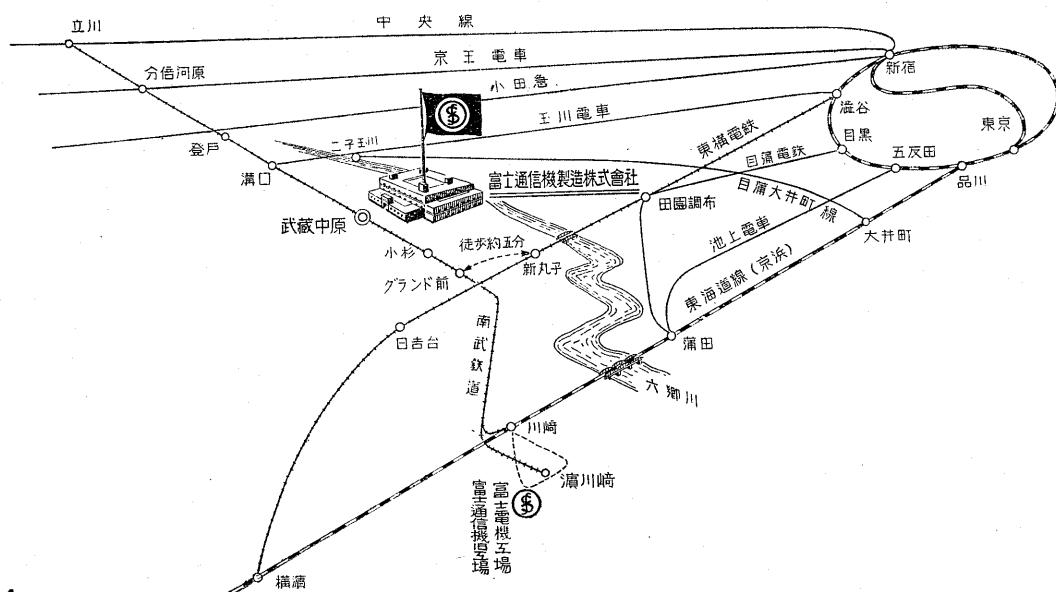
← 工
場
附
近
の
風
物



工
場
地
鎮
祭
の
朝



富士通信機製造株式會社新工場案内圖





*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する商標または登録商標である場合があります。